

園芸作物の生殖生理に関する研究

池田 和生 准教授 IKEDA, Kazuo



キーワード： DNAマーカー，果樹育種，在来作物，組織培養

専門分野： 果樹園芸学

連絡先Email： kikedata@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

研究内容

園芸作物，特に果樹は幼若期間が長く，播種から開花・結実まで非常に長い時間がかかります。したがって，新たに交配して得た実生の花や果実の形質がわかるまでかかる時間も長くなります。そういった欠点を，DNAマーカーを利用した早期判別法や遺伝子導入による幼若期間の短縮といった手法を用いて改善していく研究を進めています。



赤く着色するセイヨウナシ‘スタークリームソン’果実（左）と遮光処理果実（右）。この着色の原因を探っています。

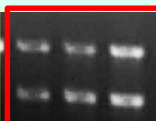
また，栽培技術や分子生物学的手法を用いて，園芸作物の開花期の判定や制御を行う技術の開発も目指しています。

さらに，附属やまがたフィールド科学センターという立地を生かして山形の在来作物の収集・維持にも取り組んでいます。

オウトウの黄色果皮と赤色果皮を判別するDNAマーカーを開発しました。



黄色



赤色



波渡なす
近年小波渡地区で発見された在来のナス。緻密な肉質で様々な調理に利用される。